

## 第4節 教育調査研究事業

### 1 共同研究（3年継続、第3年次）

#### (1) 研究主題

心身障害児の指導援助のための実態把握の方法に関する研究 一心身障害児の実態把握の方法の適用とその検討一

#### (2) 研究の趣旨

近年、心身障害児の「障害」については、心身障害児の精神あるいは肉体が健康な状態に戻らず、どこかに機能や形態の損傷が残っている状態、すなわち「損傷」と、それによって引き起こされる機能的な支障である「能力障害」及びその能力障害のためにそのままでは生活しにくい不自由な状態、すなわち「社会的不利」の三つのレベルとしてとらえるのが望ましいという主張がなされている。このような心身障害児一人一人に適切に対処するためには、個々の子供について、必要に応じて、この精神的又は身体的な損傷、能力障害及び社会的不利に関する実態をきめ細かに把握し、それに対して医学の面、福祉の面、そして教育の面から総合的に治療や指導、援助を行うことがきわめて大切である。

一方、学校教育においては、小・中学校学習指導要領や盲・聾・養護学校の学習指導要領の総則の中にも子供の实態に即した指導の必要性が明確に位置づけられている。したがって、心身障害児が在籍する各学校や各学級においては、これらの内容を正しく受けとめた教育的対応の在り方が問われることになる。加えて、障害の重度化・重複化、さらには多様化の傾向が進み、児童生徒一人一人の実態とそれに応じた適切な指導援助の在り方の研究の必要性が、一層増してきている。

そこで、本研究では「心身障害児の指導援助のための実態把握の方法に関する研究」の主題のもとに、心身障害児の指導援助のために、どのように実態把握を進めたらよいか、また、把握した実態を、実際の指導援助にどのように生かしたらよいかについて研究を進め、心身障害児の教育実践の一助にしたい。

#### (3) 研究の概要（第3年次）

- ① 行動記録表（試案）の有効性、妥当性についての検討  
昨年度、試案という形で提案した行動記録表を視覚障害、聴覚障害など様々な障害にわたり、日々の授業で活用し、検討を重ね、その修正を図り、正式な「行動記録表」とした。
- ② 行動記録表の事例への適用に関する実践研究  
研究協力校の協力を得て、視覚障害児、聴覚障害児、精神薄弱児、肢体不自由児、学習障害児を対象に、授業の様子をVTRに収録し、それを行動記録表に表し、事例への適用を行った。
- ③ 「行動記録Q&A」の作成  
この行動記録表を活用するための手引きとしての「行動記録Q&A」という小冊子を作成した。

## 2 個人研究

### (1) 長期研究員による研究

研究主題	研究内容
<p>発達の遅れを伴う肢体不自由児の行動の拡大・分化を図るための事例的研究</p> <p>一音声言語を有するH児の平仮名文字信号系の形成・促進を目的して一</p> <p>(円谷美智子)</p>	<p>子供が少しでも滞りなく行動を調整しながら生活ができるようになるためには、安定したコミュニケーション関係を基盤に、子供の能動的な活動の中で適度の状況作業をしながら、行動の拡大・分化を促すことが重要であると思われる。つまり、行動の拡大・分化に伴って信号系活動も分化するからである。そこで本研究ではH児の能動的な活動を共有しながら行動の拡大・分化を図るとともに、それに見合った信号系の活動として、新たに平仮名文字信号系を取り入れていけば、それを中継ぎにH児の行動をより一層調整を図ることができると考え、整備された状況の中での課題学習を設定して形成・促進を目的した。</p>
<p>交信行動の形成・分化に関する実践的研究</p> <p>一交信関係を促進させるためのかかわり手の対応の在り方と状況設定の工夫について一</p> <p>(石井 正明)</p>	<p>自力移動が困難で、発達の初期的な状態にとどまっている子供は、他者の働き掛けを主とする受動的な生活を強いられがちである。そうした子供たちとの交信関係の成立、促進を目指すかかわり合いは、生活活動の進展を図るうえで重要であると考え。本研究では、交信関係を促進させるかかわり手の対応と状況設定の工夫について視点を当て検討を加えた。その結果、①子供の行動を発信行動として受け止め、可能な限りそれに応じることの積み重ねがかかわり手に対する信頼感を増し、かかわり手の意向や打診を受け入れやすくなること、②こうした交信関係を土台にして共有する行動が増えてくると新たな構成信号（身振り、写真カード等）も形成されやすくなる、等の点が明らかになった。</p>

### (2) 奨励研究

次の5名の奨励研究の報告を研究報告会や所報等で実施した。

- 福島県立盲学校教諭 柳内 泰二  
「盲児のブラインディズムと行動発達に関する研究～重複障害児Kに対する治療教育の事例～」
- 福島県立聾学校会津分校教諭 折笠 順子  
「聴覚障害児におけるハーモニカ指導の効用について」
- 福島県立須賀川養護学校医大分校教諭 佐久間 英雄  
「須賀川養護学校医大分校における登校拒否児の指導と転学、卒業後の動向」
- 福島県立石川養護学校教諭 小 抜 文 雄  
「精神薄弱教育におけるパソコン利用の実践的研究」
- 相馬市立養護学校教諭 佐藤 美津子  
「児童生徒一人ひとりの能力と特性に応じた学習指導の充実」